



学習会「これからの協同組合

～協同組合のアイデンティティを学ぶ～を開催しました！

令和6年度消費生活協同組合役員研修会を開催した7月11日午後に、学習会「これからの協同組合～協同組合のアイデンティティを学ぶ～」を開催しました。現在改正についての議論が進む「協同組合のアイデンティティ」をあらためて学び、これからの協同組合、千葉の生協の姿について、県内生協の役職員の皆様と共に考えるために企画しました。当日は、千葉県協同組合間提携協議会から JA 千葉からもご参加いただき、会員生協役職員、講師、事務局を合わせ、53人が参加しました。(文責 事務局)

1. 主催者あいさつ

千葉県生協連 首藤英里子 会長理事

これまでの協同組合の取り組みや貢献が評価をされ、2025年を国際協同組合年とすることが確認されました。様々な課題解決に対する協同組合の価値が高まっています。今日の学習会を通して協同組合、生協の持つ意義や生協らしい事業・活動が持続可能な社会、安全で安心な暮らしや地域づくりにつがるものだと、確信を持っていただけるような機会になればと考えております。



2. 講演

(1) 講演. 「生協」のカタチ～協同組合のアイデンティティから考える～

講師：日本協同組合連携機構 (JCA) 常務理事 伊藤 治郎氏

講師から、1. JCA について、2. 協同組合のアイデンティティ、3. 協同組合のアイデンティティに関する ICA 声明と改定の議論、についてお話いただきました。その後、グループで感想交流をおこないました。



- 生協は生協法で厚生労働省、農協は農協法で農水省といったように、それぞれ違った法律のもとで違った所管の省庁でバラバラに発展してきたという経過がありました。農産物の取り引きなど事業上のつながりはありましたが、地域の中で何か一緒にとすることは、あまりやっていませんでした。2012年の国際協同組合年を契機に、今のこの大変厳しい時代、人口減少や高齢化の中で、地域に根差した協同組合が一緒になってやれることやってこうという機運が高まり、法人格を思った連携組織を作ろうということになりました。2015年には農協法改正があり、改正に至る議論の中で、自主・自立の協同組合を守ろうという機運もあり、2018年に JCA が設立しました。
- IYC (国際協同組合年) 2025 のテーマは「協同組合はよりよい世界を築きます」です。国連では「SDGs の実施を進める上で協同組合が果たした役割の大きさを認め、そしてさらに役割が発揮できるように、国としてちゃんとサポートしていきましょう」という捉え方をしているわけです。日本でも IYC2025 の全国実行委員会が立ち上がりました。
- ロッジデール組合のルールが ICA (国際協同組合同盟) で世界共通ルールの「協同組合原則」になったのが 1937 年、そして 2 回の改定を経て定義と価値の 2 つの項目が加わって、1995

年に「協同組合のアイデンティティに関する ICA 声明」になりました。そして 25 年後の 2021 年末、ICA ソウル大会で「アイデンティティは、いろいろな社会情勢、環境問題そういった変化の中で、今の方向でいいのだろうか」「改めて学んでみて、検証をして必要であれば改定しよう」という動きになりました。この提起から 3 年目に入りますが、日本の中でも、皆さんに参加もしていただきながら、いろいろな議論をしてきました。

○1980 年代は日本の協同組合がすごく伸びてきた時代でした。組合員の数も増えていったし、事業も伸びていった。そのような中、特にヨーロッパを中心とした海外の協同組合が、日本の生協、協同組合はすごいと思っただけです。例えば、生協の女性を中心とした組合員の活動とか、班組織、地域で数人の方々が集まって話をし、それが生協の方針に繋がっていく。そういう風な流れが、驚きを持って受入れられました。農協で言えば農村地域の中で、営農の事業もあるし、銀行も共済もやっている、そして医療もやっている。総合農協、これも世界的には珍しいのですけれど、生活インフラとして地域になくはならない組織、それがまさに海外の人からは「協同組合コミュニティ」という風に思われたことが、今の「アイデンティティ」に反映されたということです。

○この頃から私たちの生活も、意識も変わりましたよね。じゃあ今、私たち生協、協同組合が「アイデンティティ」をちゃんと実践できているのかっていうことは、改めて是非これを機会に考えて欲しい。「共通のニーズと願い」を、事業を通じて実現すると言いましたが、多分それぞれ今ここにいる皆さんも、一人ひとりニーズや願いは違うのだと思います。共通な分かりやすいニーズがだんだん実現されてきて、当たり前になってしまう。そういう中で「新しいニーズって何だろう」「そのために、じゃあ生協はどういった事業を通じてそういったニーズを満たすことできるのか」ということを、職員も組合員の皆さんも、考えるべきじゃないかと思います。これは難しい話ですが、今後の生協がどんな風に維持発展していくのかと

いうこと考えるためには必要なことだと思いますし、「その組織ありきで、組織を維持するために事業をするのは、絶対あってはならない」ということを、ちょっと偉そうですが言ってみたく思います。「自分たちの協同組合の使命ってなんだろう」ということを再認識することで、さらに自分たちがやっていることに確信を持っていただきたいと思います。



《アンケートより》

◆私が考える協同組合や生協の価値

- ・アンコンシャスバイアスを取り除いた、助け合いの組織
- ・組合員の声やニーズに寄り添うことができる職員、組合員が自主的に作りあげる「生協」
- ・正直であること
- ・社会を改革する人達。
- ・相手のことを思いやり、認め合うことに尽きると思います。

◆感想

- ・生協は「組合員に寄り添う・声を大切に」という面では、社会が変化してもそれを大切にすれば目標、目的につながる組織であると思いました。
- ・来年の協同組合年に向けて、考える基礎となるお話しでした。各協同組合を知るきっかけになるような、いろいろな人が協同組合を知る機会になることを、楽しみにしています。
- ・SDGs を実施するにあたり、協同組合が果たす役割の大きさがいかに重要かわかりました。協同組合はずっと前から取り組んできたことでもあり、その点についても誇りに思います。
- ・協同組合の存在意義が社会に伝わるようになることが大切だと思います。学ぶ、知るだけでなく、発展していく事を、皆で考えてゆきたいと思いました。